



福山高等学校
図書館便り
No. 3
(R元.6.28号)

Library News



6月の花
【アスター】
花言葉は
〈 信じる心 〉

期末考査が終わりましたね、手ごたえはどうか。図書館でもテスト勉強をしている姿をちらほら見かけました。これまでの学習の成果がでてきているといいですね。3年生は福高面接でしっかりと学んでいるのでしょうか、入退室の挨拶がとても良いです。また、図書館前廊下を歩いていた男子生徒（何年生だったか、はっきりわからず…）が、館内で作業をしている私に「こんにちわ！」と気持ちの良いあいさつをしてくれました。今年度もあいさつがあふれる、素敵な福山高校で嬉しくなります。

来週からなんと、もう7月！早いですね。1学期をしめくくる、図書委員会主催のイベントを2つ紹介します。

(1) セタイイベント

委員長と副委員長がささっと準備してくれました。来館者のみなさんに短冊を書いてもらっています。しおりが入っている箱に短冊がありますので、短冊を書いたり七夕飾りも見に来たりしてくださいね。



ちなみに…笹竹に短冊をつるして願い事をするようになったのは江戸時代からで、手習いごとをする人や寺子屋で学ぶ子が増えたことから、星に上達を願うようになったのです。短冊には「〇〇が欲しい」というような物質的な願いごとではなく、上達や夢を綴ったほうがよいとされているそうです。

そしてもう一つ。七夕という行事自体はアジア圏で主に行われているのですが、実はこの『笹に願いを書いた短冊を飾る』という風習は日本でしか行われていないそうです。

(2) ビブリオバトル

5月号でお知らせしましたビブリオバトルを7月に開催します。ただ今バトラー（発表者）を大募集中です。

あなたの大好きな1冊について語り、みんなにも読んでもらいませんか。詳しくは図書館の伊集院まで。



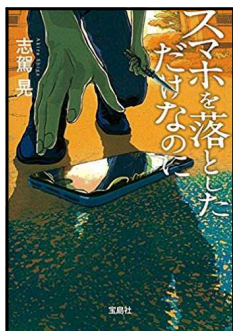
※ 県のビブリオバトル大会にバトラーまたはボランティアとして参加したい人も伊集院まで連絡ください（7月5日までに）。

福山高校図書室たより By 図書委員

6月号

今回は3年の図書委員2人が素敵な本の紹介をします。

『スマホを落としたただけなのに』 志賀 晃 著



まず、この本のテーマは「スマホを拾ってくれて届けてくれた人が連続殺人犯であった。」というところから物語りは広がっていきます。

この文章を読んでいるあなたは、SNSを利用していますか？利用している人は、プロフィールに自分の誕生日を掲載していますか？あ！と思った人は、自分の暗証番号を確認してみてください。それが誕生日の人はこの時点でスマホのロックを解除されてしまいます。

物語の話に戻りますが、この本の登場人物である「ある男」は、拾ったスマホに電話がかかってきた時、画面に表示された黒髪の女性に興味を抱き、近づこうと画策します。どうやって?? その男はまず、スマホの中に入っている... いや、この話はやめておきましょう。その方法は本を読んで確認してみてください。その巧妙さに舌を巻くと思います。

最後に、この本を読み終わった後、人が怖くなるかもしれないし、この世さえ恐ろしくなるかもしれません。でも、それと同時に人が好きにもなる作品です。是非読んでみてください。強制はしませんけど(笑)。あ、読む時は、読みふけても大丈夫なくらいの時間を確保してからですよ。

『くらべる東西』 おかべ たかし 著



タイトルのまま、関西と関東を比べてみるという本で、写真つきで分かりやすく紹介しています。この本は、普段私たちが当たり前だと思っていることが、読み終わる頃には考え方や見方が変わるかもしれない本なのです。

私が特に驚いたのは、お正月などに食べる『ぜんざい』が関西では『汁なしぜんざい』だということです。

ところで、鹿児島県の県外流出率(県外に出て行く人のパーセンテージ)はご存知ですか。なんと50%以上!つまり、過半数以上は県外に出て行きます。きっとこの図書室便りを見ている人の中には高校を卒業したら県外に出ようと思っている人が多いのではないのでしょうか。この本を是非読んでおいてください。県外に出たとき、自分が常識だと思っていたことが違うかもしれないし、鹿児島県だけで通じるものがあるかもしれません。知っておくと便利かも。

『くらべる時代 昭和と平成』『くらべる値段』『くらべる日本 東西南北』も是非。